氏　名	副島　健作　（教授）
こんな研究をしています	現代日本語文法、言語学、日本語教育を専門としています。 特に、日本語教育において重要となる「日本語らしさ」とは何か、また世界の言語の中で日本語がどのような特徴を持つのかという点に関心を寄せています。研究では、アスペクト（開始・進行・継続・完了など）やヴォイス（能動・受動・使役など）といった文法構造に注目し、日本語・韓国語・ロシア語など複数言語を対象に、結果表現や受動構文の意味・機能の違いを比較しながら考察しています。
こんな成果を挙げています	副島健作 (2025). 音声言語における人為的結果の多様性－韓国語の受動表現と自動詞－. 異文化, 25,59-80. 副島健作 (2024). 音声言語における結果表現の使い分け－過程の知覚はどう影響するか－. 社会言語科学, 27(1),127-142. 副島健作 (2023). 受身や自動詞とその周辺構文による結果の表現－日本語，韓国語，ロシア語，エストニア語を対象に－. 異文化, 24,107-131. Soejima, Kensaku (2014). On expressions of agent de-topicalized intentional events: A contrastive study between Japanese and Russian. *Journal of Japanese Linguistics (JJL)*. Vol. 30. 115-136. 副島健作 (2013).「原因」を表す接置詞の文法化: 日本語とロシア語を対象に. *Studies in Lnguage Sciences－Journal of the Japanese Society for Language Sciences－*.第 12 号. 95-111. 副島健作 (2007). 日本語のアスペクト体系の研究. ひつじ書房.
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	自然な日本語とは何かを考えることは、日本語教育にとって非常に重要です。外国人学習者の日本語には、しばしば微妙な不自然さや違和感が生じます。また、意図せず発した表現が相手を不快にさせてしまうこともあります。こうした問題を避け、学習者が自然で違和感のない日本語を使えるようになるためには、「自然な日本語」の特徴を理論的に明らかにする必要があります。さらに、その知見を踏まえた日本語教育が、多文化共生社会においてどのような役割を果たし得るのかについても関心を持ち、研究を進めています。
こんな授業を行なっています	「多言語相関論IVA」 日本語を母語としない学習者に日本語を教えるという視点から、日本語の文法・語彙・コミュニケーションの特徴を学びます。学習者の母語との対照を通して日本語の特性を理解し、多文化共生社会における日本語の役割を言語学的に考察します。
学会や社会でこんな活動をしています	日露青年交流センター 日本語教師派遣事業 研修コーディネーター （2023 年 4 月 –）
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	多文化的かつインターカルチュラルな人物として、理想的な日本語教師が思い浮かびます。日本語教師は、異なる文化的背景を持つ学習者と向き合いながら、異文化理解と多様性の尊重を日々の教育実践の中で体現しています。多文化共生の視点を持ち、効果的なコミュニケーションを通じて学習者を支援する姿勢は、まさにインターカルチュラルな人物像そのものです。こうした姿勢は、私自身が研究・教育において大切にしている価値観とも重なります。